



高崎の伝統芸能を次の世代へ



富岡 賢治 市長

伝統文化の保存継承のため、今年度から備品の購入・修繕に助成を開始

市長 山車の方も、近頃は子どもが少ない町内もあるから、子どもを集めるのも大変ではないですか？
飯田 大変ですね。うちの和田町は、竜見町や栄町、双葉町といった周辺の町内に協力してもらっています。それで子どもは15人、親御さんも合わせて100人くらいで山車を引きます。

市長 子どもにとって太鼓をたたくという経験は、大人が考える以上に心に残るものですよ。
飯田 私も小学2年生のときにたたいた覚えがあるんですけど、今でもいい思い出です。たけと言われれば、今でもたたけますよ。

市川 お祭りや神楽は、子どもや若者たちが、本物の伝統芸能に触れる良いチャンスだと思いますよ。
市川 私たちは助成を利用して、イザナミの命の衣装を新調します。おかげで、神楽の舞の中で重要な意味を持つ「浮橋の舞」を40年ぶりに復活させることができました。
市長 今回の助成は予想以上に反響がありまして、いろいろな団体から申請をいただきました。高崎には伝統芸能を一生懸命大事にされている方たちがいますから、そういう人たちをこれからも応援していきたいと思っています。

市川 私たちは助成を利用して、イザナミの命の衣装を新調します。おかげで、神楽の舞の中で重要な意味を持つ「浮橋の舞」を40年ぶりに復活させることができました。
市長 今回の助成は予想以上に反響がありまして、いろいろな団体から申請をいただきました。高崎には伝統芸能を一生懸命大事にされている方たちがいますから、そういう人たちをこれからも応援していきたいと思っています。



▲ 40年ぶりの復活「浮橋の舞」
 子どもが主役の高崎の山車 ▶



高崎の伝統芸能を次の世代へ



高崎の山車囃子は子どもが主役

(飯田さん)

新しい取り組みで伝統を守る

(市川さん)

伝統芸能に一生懸命な方々を応援

(市長)

市民と市長が高崎のさまざまなテーマで語り合う「ほっとTタイム」。今回のお相手は、高崎山車まつり副実施本部長の飯田章さんと、「椿名神社太々神楽保存会」神楽部部長の市川素男さんです。高崎の伝統文化の保存・継承・発展に取り組む2人をお招きして、話を伺いました。

高崎山車まつりと 椿名神社太々神楽

市長 もう間もなく高崎まつりです。この時期になると街のあちこちからピーヒョロ、ピーヒョロとお囃子の音色が聞こえてきますが、この光景は、高崎の夏の風物詩と言ってもいいくらい素晴らしいですね。

飯田 子どもたちによる山車囃子の練習風景ですね。高崎の囃子は、子どもが主役です。それを教えるのは地域の老若男女や親御さん。これはずっと変わらない伝統なんですよ。

市長 小さな子どもたちが集まって熱心に練習している。何とも言えずいい雰囲気、涙が出そうになりますよ。

飯田 私は、38台ある山車とそのお囃子は高崎の誇りだと思っています。豪華な上に優雅さがありますし。

市長 駅前にはずらりと整列する光景は、迫力がありますよね。市川さんは、倉渚地域で神楽をされているということですが、どのくらい続いているのですか？

市川 私どもの「椿名神社太々神楽」は大正6年に、上小埸町の烏子稲荷神社から伝授されたもので、今年で



市川 素男 さん

倉渚地域で90年以上の歴史を持つ「椿名神社太々神楽」で神楽部部長を務める。倉渚町権田在住

95年になります。毎年2回、倉渚町権田にある椿名神社の神楽殿で舞を披露しています。

市長 椿名神社の神楽はファンが多いと伺っていますよ。

市川 おかげさまで、当日は境内がいっぱいになるくらい人が集まります。神楽の最後にひよつとこが菱餅を客席に向かって投げるのですが、それはもうにぎやかですよ。

市長 それは楽しそうですね。市川さんは神楽を誰から学ばれたのですか？

市川 私が入門したのは20歳のころでした。当時は明治の人たちがいまして、烏子神社から伝授された舞を

たりしています。これは今までになかった新たな取り組みです。こうした活動を続けていくことも、伝統芸能を守る上では大切だと思います。
市長 何でも新しいものに手を出していくだけがいいわけじゃない。こういう活動を大事にしていくのがまちづくりなんですよ。皆さんの話を聞いたら、伝統芸能を見るのがますます楽しみになりましたよ。高崎まつりの参加はもちろんですが、神楽もぜひ見に伺います。本日はありがとうございます。

飯田・市川 ぜひお越しください。ありがとうございました。